

MCCスポーツ presents

2023年度第72回  
全日本大学サッカー選手権  
大会



# 参加チーム

- ・北海道（2チーム）
  - ・東北（1チーム）
  - ・北信越（1チーム）
  - ・関東（6チーム）
  - ・東海（3チーム）
  - ・関西（4チーム）
  - ・中国（1チーム）
  - ・四国（2チーム）
  - ・九州（3チーム）
  - ・総理大臣杯優勝チーム（1チーム）
- 計：24チーム

# 日程及び会場

- 1 回戦：2023年12月7日（各地域派遣学生審判員が主審担当）
- 2 回戦：2023年12月10日（各地域派遣学生審判員が主審担当）
- 3 回戦：2023年12月13日（今回大会から初めて学生審判員が3回戦主審を担当 ※評価された4名のみ）

準決勝：2023年12月21日

決勝：2023年12月24日

- ・流通経済大学龍ヶ崎フィールド・第一カッターフィールド
- ・ブリオベッカ浦安競技場・三ツ沢公園陸上競技場
- ・神奈川県立保土ヶ谷公園サッカー場・AGFフィールド
- ・茨城県立カシマサッカースタジアム（決勝のみ）

# 参加審判員

- ・北海道2名
- ・北信越2名
- ・関東5名
- ・東海3名
- ・関西1名
- ・中国1名（上瀬）
- ・四国1名
- ・九州1名

計：16名（2年：2名、3年：2名、4年：12名）

# 全日本大学サッカー連盟が求める学生審判員

## <基本理念>

- ・ 大学サッカー界全体の競技力向上への努力
- ・ フェアプレー精神の理解と実施
- ・ 思いやりの心や協調性、社会性の取得と自立した人間形成
- ・ 各種の組織やグループをリードすることのできる人材の養成
- ・ 豊かなスポーツ文化の振興や社会の発展への寄与

## <目指す審判員像>

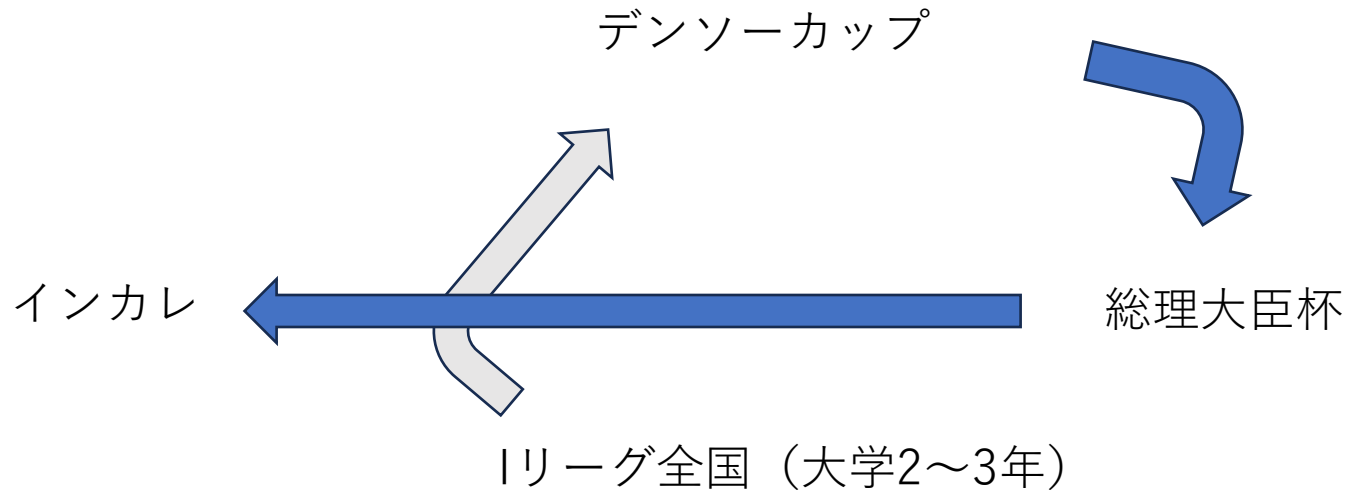
- 各地域学生リーグや準公式戦等を担当し、競技力向上に寄与する（連盟加盟チームに所属することが望ましい）
- 選手と協力し、フェアプレー溢れる試合を創る
- 選手、観客その家族など試合に携わる全ての人に感謝の心を持つことができる
- 大学、チーム、社会においてリーダーシップを発揮することができる
- 審判技術の追求のみならず、豊かなスポーツ文化や社会に貢献できる



# 11/20 21:30～ 事前研修 (ZOOM)

開幕までおよそ2週間に迫った2023年度第72回全日本大学サッカー選手権大会に向け、レギュレーションや今大会の審判員選出について、注意事項等を確認しました。また、全日本学連審判部会長を務める青山氏、部会員の赤阪氏、増山氏より激励のお言葉を頂戴致しました。

なかでも皆様がおっしゃった、「今回選ばれた皆さんは、**大学生審判員のトップ、全日本審判員選抜だ**」との言葉には自信、誇りと共に大学サッカーの集大成を良い形で締めくくれるように、大会成功に向けて頑張ろうという気持ちになりました。



私の代からこのような大会派遣および研修・育成サイクルが本格的に稼働したそうです。またそれに伴い、審判関係者のみならず全日本学連の事務局からもご評価、ご理解を頂き、学生審判員の担当する機会が徐々に増えてきています（例を挙げると、昨年のインカレは2回戦までの主審が学生審判員の担当であったが3回戦までに広がった）。

☆学生審判員への期待、求められていることは高まっています。現在、大学1~2年生で2級審判員の方々にはぜひ大学サッカートップレベルの試合、緊張感、スピードを、継続的に派遣を通じて経験して欲しいと思います。





## 担当試合：1回戦 (12/7)

常葉大学 vs 鹿屋体育大学  
@AGFフィールド

主審：上瀬琉（中国）

副審1：関根翼（関東ERC）

副審2：橋本拓飛（帯同）

4th：大野智哉（関東ERC）

アセッサー：塩屋園文一氏

視察：上川徹氏

<試合を振り返って良かった点>

- ・ 幅、角度を取る動き、カウンター時のスプリント
- ・ 選手に円滑なコミュニケーション、効果的な注意
- ・ 選手の動きから争点の予測
- ・ 判定時のポジション

<課題点>

- ・ 目を切るタイミング
- ・ オフサイドに対するフラッグアップをもう少し早く認識
- ・ 要所要所の外から見るポジショニング

<アセッサー：塩屋園氏からのコメント>

- ・カウンター時のスプリントが魅力的であった
  - ・幅を取る動きが良い→さらに良くするには緩急ある動きをする
  - ・判定時の距離が良い
  - ・コーナーキック時のポジショニングが少しオートマティカリーだと感じた
- チームの戦術や状況によって臨機応変にポジショニングを変えて、選手にしっかり監視していると示すことが大事
- ・目を切るのが少し早い場面があった
  - ・選手目線、気持ちに立ち過ぎない→客観的な判断

<上川氏からのコメント>

- ・カウンター時のスプリント、追いついた後の角度を取り判定の流れ、動きが良かった
- ・ポジショニングに問題はなかった
- ・オフサイドのフラッグアップにもう少し早く気付けるように
- ・ゴールキック時のポジショニング

# 1シーズンを通して

---

大学4年生となり、就職活動や国家試験対策などを並行しながらではありましたが、今年の3月には「デンソーカップ」、9月には「総理大臣杯」、そして「インカレ」へと派遣させていただきました。この1年、大学サッカートップレベルの大会、試合を継続的に担当できたことを非常に光栄に思うとともに、自身の成長・自信に繋げることができました。残念ながら、インカレについては1回戦の主審のみの担当で以降の割り当てはありませんでした。ですが、「デンソーカップ」・「総理大臣杯」では、決勝副審に割り当てていただけ良い経験ができました。



# 最後に

大会派遣にあたり、推薦等を頂きました中国大学サッカー連盟様、中国サッカー協会様をはじめとした関係者の皆様に感謝申し上げます。

繰り返しにはなりますが1年間、継続的に大学サッカートップレベルの試合を経験でき、非常に有意義であり、自身の成長に繋がる機会となりました。来年度以降も中国地域の大学生審判員が継続的に全国の舞台を経験し、良いパフォーマンスをしてくれることを願っています。



Thank you

